

平成 27 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

21世紀の国際社会をリードする新しい時代のリーダーを育てる学校めざす。

- 1 知・徳・体の調和のとれた人間を育成するとともに、社会に貢献する志を持った、グローバルなリーダーを育てる。
- 2 夢や志を実現できる確かな学力を身につけさせ、生徒の進路希望の実現を図る。
- 3 豊かな心や三丘スピリット（文武両道、自主自立、切磋琢磨）を育む。また、要配慮生徒への支援や人権尊重の精神を涵養し、安全・安心な学校をつくる。
- 4 教職員の資質の向上と機動的な学校運営体制を確立させ、府立高校の評価・信頼向上のリーダー校をめざす。

2 中期的目標

【1】 生徒の夢や志を育み、国際感覚を育成する

(1) グローバルリーダーズハイスクール (GLHS) にふさわしい「志学」や「キャリア教育」を推進する

ア 進路意識の醸成を図る

- 「総合的学習の時間」・LHR等で社会の第一線で活躍する人材を有する同窓会等と連携し、卒業生を活用し大学や社会での最先端の学問や研究、仕事の最前線に触れさせる。
- ※ 「三丘セミナー」等の充実を図り、毎年20講座以上提供する。
 - ※ 「CS探究・CS研究」の充実による志の形成サポートや大学のオープンキャンパスなどを活用し、学部選びや将来の志望育成を図る。
 - ※ 「京大見学会」「東京方面キャンパスツアー」を毎年実施し、研究室訪問などを行うことにより、高い目標を醸成し、その満足度を90%以上とする。
 - ※ 本校にふさわしい3年間を見通した進路・キャリア教育のプログラムを完成させる。

イ 高い志を育成する

- 三丘セミナー、大学訪問、医療系職場体験などの具体的なプログラムを提供するとともに、難関大学の見学会や体験事業を通じて社会に貢献できる高い志や目標意識を育む。
- ※ リーダーとして高い志を育成するための進路講演会・懇談会を充実させ、生徒の満足度を90%以上とする。
 - ※ 京大・阪大・神大などの難関大学の研究室訪問や見学会を年5回以上実施するとともに、その内容の改善・充実を図り、満足度90パーセント以上を維持する。
 - ※ 医療現場と連携して医師・看護師などの医療系職場体験の充実によって、医療系進学者の増加を図る。(H23年度は27名、H24は24名、H25は32名、H26未定)

(2) 国際感覚とグローバルリーダーの育成を図る

ア グローバルリーダーの育成

- スーパーグローバルハイスクール (SGH)、グローバルリーダーズハイスクール (GLHS) にふさわしい確かな学力を育てるため、「Creative Solutions I II III」・「CS探究」を充実させ、確かな英語の学力をつけるとともに、グローバルリーダーをめざした目的意識を醸成する。SGHカリキュラムによる「メルルハースト大学」の派遣教員の授業、「国際機関の現状と使命」や「世界の最新の知見」を学ぶことにより、生徒の学習意識を高め、グローバルリーダーとしての素養とリーダーシップを学ぶ。
- また、スーパーイングリッシュティーチャ (SET) の配置に伴い、「TOEFL 授業」の開発・構築をはかる。
- ※ 「SETを活用した英語授業」の構築と内容の充実を図る。授業満足度70パーセント以上をめざす。
 - ※ 英語教育の充実を図り、TOEFL ITP、TOEFL junior の受験者300名以上をめざす。海外進学1名以上をめざす。
 - ※ 学校教育自己診断 (生徒) 「コミュニケーションに必要な英語を学ぶ機会がある」肯定的評価75%以上をめざす。(H26 72.5%)

イ 国際感覚の育成を図る

- オーストラリア・スタディーツアー、アメリカ・スタディーツアー (ポートランド・NASA) やフィリピン・スタディーツアー、海外への修学旅行 (H27年はグアム、H28年以降3年間は台湾)、スポーツ海外交流をしっかりとした企画のもと充実した内容で持続的に実施する。
- ※ すべての企画で満足度90%以上をめざす。
 - ※ 海外よりの交流生徒・短期留学生の受け入れ20名以上をめざす。また、中国・韓国との交流にも努める。
 - ※ 学校教育自己診断 (生徒・保護者) 「国際交流に関する取り組みが充実している」の肯定的評価80%以上をめざす。(H26 生徒89.2% 保護者84.2%)

【2】 確かな学力の向上と進路希望の実現を図る

(3) 質の高い授業による確かな学力向上

ア 質の高い授業の提供

- SGH・GLHS・SET配置校としてふさわしい確かな学力を育てるため、関連科目の充実や文理学科・普通科に適した教科・科目の教材開発、アクティブラーニングや電子黒板を用いた双方向の授業方法などの研究を進める。
- ※ SGH・GLHS・SET配置校として毎年4回以上の授業公開を行うとともに、保護者への授業公開も3回以上行う。
 - ※ 生徒の自学自習 (学校外での学習時間) を2時間以上確保する指導を充実する。
 - ※ 1・2年生で1日2時間以上の自学自習をめざす。授業アンケートや研究授業を活用して授業力向上を図り、生徒の授業満足度を向上させる。
 - ※ 生徒の授業評価における授業満足度の向上を図り、つねに80%以上を維持する。(H26年度87%) また、学校教育自己診断における保護者の授業満足度60%をめざす。(保護者 H26年度は56.4%)

イ 学力向上の取り組み

- 教科会議を充実させ、教科としての教科指導力の向上をはかる。また隔週土曜日4限授業の導入に伴い、3年生における新たな「三丘スタディーハード」の構築を図る。
- 1年生及び2年生で勉強合宿を実施して、学力向上と学習意欲の向上を図る。
- ※ 「三丘スタディーハード」の生徒の満足度70%以上をめざす。
 - ※ 勉強合宿への参加生徒の満足度90%以上を維持するとともに、つねにプログラムの工夫・改善を行う。
 - ※ 課題研究や発表大会を充実させ、参加生徒の満足度80%以上を維持する。
 - ※ 基礎的、基本的な学力を高めるために読書量、読書時間の確保を図る。

(4) 進路希望の実現

- 難関国公立大学等 (東大、京大、阪大、神大、市大、医学部医学科) への進学者の増加を図る。(H26年度147人)
- ※ 現役の難関国公立大学進学者数を毎年増加させる。(H26年度85人)
 - ※ 学校教育自己診断において、本校の進路指導に対する保護者の満足度80%以上をめざす。(H26年度79.2%)
 - ※ 1、2年生の成績不振者には計画的な「成績不振者講習」を行い、学力の回復と意欲向上を図る一方、発展的専門的な学習を行い、学力を養成する。
 - ※ 進路講演会、勉強合宿などを利用して卒業生チューターとの学習・進路相談を充実させ、生徒の進路意識の醸成を図る。
 - ※ 卒業生チューターとの懇談を年間5回程度実施する。
 - ※ 生徒自らが適切な進路選択ができるとともに、難関大学への志望力を高めるために進路指導体制の強化を促進する。
 - ※ 進路ホームルームの充実と3年間を見通したプログラムの進化に努める。

【3】 基本的な生活習慣の確立と自主自立・人権尊重の精神の涵養

(5) 生活習慣の確立と三丘スピリット育成

- 規範ある集団生活を確立し、遅刻指導の徹底と授業集中力を高める。
- ※ 1日1クラス当たりの遅刻人数を0.5人未満の維持をめざす。
 - ※ 部活動や学校行事を通じて「三丘スピリット」を育み、「集中と切替え」ができる生活態度を育てる。
 - ※ 各種の行事や部活動を通じて豊かな人間性とリーダーに必要な資質を養う。また顕著な成績をおさめた生徒は積極的に顕彰する。
 - ※ 1、2年生の部活動加入率95%以上の維持をめざす。
 - ※ 悩みや不安を抱えた生徒に対応するため教育相談やカウンセリングの機能を高める。

(6) 人権尊重の教育推進

- 情報リテラシーの育成などの今日的課題をふまえて、リーダーにふさわしい豊かな人間性や資質を涵養するため、日常の教科教育のみならず、あらゆる場面で教職員が、人権教育に協力して取り組んでいく。
- ※ 27年度より導入する男女混合名簿の定着をはかる。
 - ※ 毎年、学年ごとに1回以上の人権講演会および人権HRを行い、人権意識を涵養する。
 - ※ 学校教育自己診断 (生徒) の「人権・環境・福祉などの今日的課題について学習する機会がある」に対する肯定的意見50%以上をめざす。(H26年度40%)
 - ※ そのため、人権教育推進委員会と学年、分掌が連携して、恒常的な情報交換を行う。

【4】 機動的な学校の運営体制の確立と教職員の資質向上

(7) 機動的な学校運営

- 機動的な学校運営のため、学校経営計画の学校の目標や取り組みを共有し、実行し、常に教職員が課題や改善点を意識し、次年度につなげる。
- ※ 教職員個々の評価・育成システムでは学校経営計画の項目に関連した目標を設定し、取り組む。また、年度末の自己評価で明らかになった課題や改善点は次年度の目標に

反映させる。

- ※ 組織的・機動的な学校運営ができるよう、学校組織や業務の見直しに不断の努力を行う。
- ※ ICTが活用できる環境作りと機動的な情報伝達と共有を図り、全員がICTを使って業務の省力化を図る。
- ※ ICT統合及び校務処理システムの円滑な実施をめざす。

(8) 安全・安心で開かれた学校

安全で安心できる学校をつくるため、緊急事態発生時の対応や教職員の研修など危機管理体制を確立する。

- ※ 各学期1回以上の研修を実施する。
生徒相談室の機能の充実を図るとともに、特に課題を抱えた生徒について、学年団での情報交換や連携指導を深める。
- ※ 各学期1回以上のケース会議の開催と、随時の学年団での情報交換会を開催する。
- ※ 開かれた学校として、保護者や地域との連携を図るとともに、教育活動や学校運営についてWebページを通じ公表していく。
- ※ Webページは随時更新し、行事等は10日以内の情報提供をめざす。
- ※ 学校教育自己診断（保護者）の、「学校は、保護者から意見をきく機会を多く持っている」に対する否定的意見が10%以下をめざす。（H26年度 否定的意見16.8%）
そのため、保護者集会（学年連絡会）を各学年で実施し、内容を充実させる。
- ※ 文化祭や登録文化財「三丘会館」、芸術祭、各種講演会などを広く府民に積極的に公開する。
- ※ 地域住民、府民など公開する行事を年間3日以上設定する。
- ※ 27年度「創立120周年記念」の年を迎えるにあたり、学校・同窓会・PTAが一体となった創立記念事業をおこなう。

(9) 教職員の資質向上

新着任教員対象が、新しい職場への早期適応と研修の充実による教職員の資質向上を図る。

- ※ 若手教員の勉強会である「三研究会」を中心に各学期1回以上の研修を実施する。
授業力向上をめざし、校内研究授業を学期ごとに開催するとともに、教育産業等が主催する研修や他校の研修の受講を支援する。
- ※ 教育産業や他校の研修に年間50人以上の参加を促進する。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

| 学校教育自己診断の結果と分析 [平成27年10月実施] | 学校協議会からの意見 |
|---|--|
| <p>[I] 生徒・保護者アンケートで肯定的な意見が90%を超えるもの [生徒] ① 学校生活は楽しく入学して良かった。(92.4→91.2%) ⑩ 文化祭・体育祭や部活動等において生徒は自主的に活動。(95.4→95.1%) [保護者] ① お子様にとって学校生活は楽しく入学させてよかった。(94.6→95.0%) ⑩ 文化祭・体育祭や部活動等において生徒の自主性が発揮。(95.9→94.2%) [II] 生徒・保護者アンケートの経年変化から (1) 進路指導に関する事項 [生徒] ⑤ 必要な進路情報の提供など、適切な進路指導を行っている。(87.2→85.8%) (2) 授業に関する事項 [生徒] ⑦ 満足できる授業が多い。(73.4→70.2%) [保護者] ⑧ 満足できる授業が多いと聞いている。(56.4→56.7%) 【分析】 7割以上と肯定的な意見が多い一方、否定的意見も増加傾向にある。ここ数年、教員の入替わりもめまぐるしく、今後もこの状況は続く予想される。教科内で授業参観・研究授業を実施するなど互いの授業の質を高め、三丘生が期待する授業の質を保証していく。 (3) 施設・設備、校内美化に関する事項 [生徒] ⑩ 学校の施設設備は学習環境として適切である。(86.6→82.9%) [保護者] ⑩ 学校の施設設備は学習環境として適切である。(79.5→77.2%) 【分析】 生徒・保護者ともに肯定的な意見が多い一方で、老朽化は進み、各所で点検・整備が必要となってきている。日常の清掃(特に廊下)をきっちりと行うよう生徒に指導する必要がある。 (4) PTA活動に関する事項 [保護者] ⑩ 現在の本校のPTA活動は適切である。(72.9→70.2%) (5) 三丘セミナー等に関する事項 [生徒] ⑩ 三丘セミナーや大学見学、医療体験などは役立っている。(59.4→74.8%) [保護者] 22 三丘セミナーや大学見学、医療体験などは役立っている。(66.8→81.3%) 【分析】 この項目は肯定的な意見が年々増加しており、三丘セミナーをはじめその他体験授業の充実を示していると判断でき、このまま継続・発展させるのが望ましい。 (6) 本校の伝統に対する生徒・保護者意識に関する事項 [生徒] ② 本校の自主自立を尊重する伝統は活かされている。(78.3→67.1%) [保護者] ② 本校の自主自立を尊重する伝統はよく活かされている。(87.8→87.9%) 【分析】 生徒意識に関する数値で低下が見られる。この変化は日常的な指導に起因すると考えにくく、隔週土曜授業の実施などさまざまな制度変更によるものと思われる。 [III] 学年別の結果(生徒用)から他学年と比較し、特定の学年で数値が高い項目を挙げる。 (1) 第1学年 ⑥ 学校生活を通じ、将来の生き方を考える様々な機会がある。 21 コミュニケーション等に必要な英語を学ぶ機会がある。 【分析】 ⑥ キャリア・ガイダンスや京大見学会などを実施した影響と考えられる。 21 今年度より実施のTOEFL授業の影響が大きいものと考えられるが、英語科の授業を通じて学年全体にコミュニケーション英語を学ぶ雰囲気が浸透しつつあると考えられる。 (2) 第2学年 ⑩ 人権、環境、福祉について学習する機会がある。 【分析】 今年度実施した本校教諭による人権に関する講話の影響が大きいものとする。 [IV] 図書館利用に関する事項 一ヶ月の読書量が1冊以下という回答が全体の62%(昨年比10%増)。国語科の読書指導と連携し、小説以外のさまざまなジャンルの読書を促す。今年度より図書館に読書記録用の評論推薦図書コーナーを設置しており、こちらの利用も積極的に促す。 [V] 土曜日授業の実施に関する事項 [生徒] ⑩ 土曜日授業により学習効果が高まっていると思う(1年28.8%、2年22.7%) [保護者] 23 土曜日授業により学習効果が高まっていると思う。(54.1%) 【分析】 導入初年度ということもあり、否定的な意見が出ることは予想されたが、それを考えても、とても良い結果であるとは言いがたい。生徒と保護者の間で肯定意見の割合に30.8ポイントの差があることにも留意すべきである。より効果的な取り組みが求められる。 [VI] 教職員アンケートの経年変化から ① 学校では教育計画の作成にあたって、教職員で話し合う機会が多い。(34.7→41.2%) ② 学校では教育活動全般に渡る評価を行い、次年度の計画に生かしている。(44.9→54.9%) ⑩ 学校経営に教職員の意見が反映されている。(22.4→22.0%) 【分析】 制度や学校運営の方式が急激に変更した事の反動であると考えられる。</p> | <p>第1回 6月27日 ○昨年度からの変化がわかるような資料づくりをして欲しい。特に今年度の重点項目など。 ○キャリアガイダンスや京大見学会の時期などは、文理選択や日々の教科指導など全体の流れの中で考えて導入していく必要がある。 ○SSH再申請については、今までやってきた事を発展させるような書き方が良いのでは。SGHを目標に来た生徒がいるように、SSHも中学生を引き付けるような取り組みをして欲しい。 ○進路結果について、もう少しで志望の京大や阪大にいけそうなら、もう1年頑張ってもらいたい。 ○もう少し保護者の意見を集めるような機会を設けて欲しい。 第2回 10月31日 ○教科スタンダードの作成について、しっかり前に進めていって欲しい。 ○勉強合宿について。なぜ希望者だけなのか。全員は難しいのか。自分の時と比べて、自主的に学習する雰囲気が少なくなっているように思う。自主的に学習する習慣をどこかでつけられる機会があるといい。 ○キャリアガイダンスについて 生徒の満足度が大きかったということであるが、10年後20年後将来の自分を描くことは大切なことだと思うので、ぜひ継続したらいいい取り組みだと思う。 ○家庭の学習について、1年生の学習時間が増えていることは非常に望ましいことだと思う。2年生は1年次より学習時間が減っている。3年間の中で中だるみがあるとするれば課題として考えてほしい。 ○ルーブリックについて、評価の前に先に自己評価をさせてみてはどうか。それと先生の評価との乖離を比較することもよいと考える。自分たちの評価が意図して評価者に伝わっているかどうかを確認できる。 ○SSH、SGHの生徒の満足度も高いということであるが、これは先生方が熱意をもっておられるということに他ならない。ぜひ、その熱意を持ち続けて指導を続けていただきたい。 ○子供たちの参加意識はもとより、先生方の志や情熱が素晴らしく大変感心させられる。先生方についていけるような子供たちを育ててほしい。また、それらの成果を在校生だけでなく、地域にもアピールすれば志の高い生徒が三国丘をさらに志望するのではないかと。</p> <p>第3回 2月12日 ○見学した授業では、構成もよく、プロジェクトがとても有効に使われていて良かった。 ○授業では全教室に設置されているプロジェクトを先生が活用し、効率的にスピーディーに行なわれているのに加え、プリント・資料集・板書も連動させ多彩な指導があり素晴らしいと思った。 ○課題研究発表会について、多様な発表を一緒にされているのが良かった。 ○高校生ビジネスグランプリ等への参加について、情報発信をもっとすれば、企業側からの反応などもあるかもしれない。 ○これだけの取り組みをされているので、もっと情報発信すればよい。 ○土曜授業は、生徒の学力向上に寄与していると思う。教職員で学校教育計画について話をする機会があがっている。土曜授業に関しても、しっかりと教員で話をしてほしい。 ○外にSGHやSSHの取り組みが広がっていないのではないかと。もっと中学生に知らせる場があれば良いと思う。三国丘高校の特色を出せば、大阪市内に行かなくてもと思うので、発信して欲しい。</p> |

3 本年度の取組内容及び自己評価

| 中期的目標 | 今年度の重点目標 | 具体的な取組計画・内容 | 評価指標 | 自己評価 (3月22日) |
|------------------------------------|--|---|--|--|
| <p>1 生徒の夢や志を育み、国際感覚を育成する取組みの推進</p> | <p>(1) グローバルリーダーズハイスクールにふさわしい「志学」や「キャリア教育」を推進 ア 進路意識の醸成を図る イ 高い志を育成する</p> | <p>①「三丘セミナー」等の充実を図る。 ②探究的学習「CS探究・CS研究」の充実を図る。 ③科学の最前線にふれる機会を提供し、科学教育の充実を図り、理系進学者の増加を図るために、また高い進路意識を醸成するために「東京方面キャンパスツアー」を実施する。 ④本校にふさわしい3年間を見通した進路・キャリア教育のプログラムを完成させる。 ⑤リーダーとしての高い志を育成するために進路講演会・懇談会などの取組みを充実させる。 ⑥京大・阪大・神大などの難関大学の研究室訪問や見学会を実施する。</p> | <p>①20講座以上提供する参加生徒の満足度85%以上 ②課題研究選択生徒の満足度85%以上 ③キャンパスツアー参加生徒の満足度85%以上 ④3年計画の進路プログラムの充実 ⑤実施回数年8回以上 ⑥実施回数年8回以上 ・学校教育自己診断(生徒)「適切な進路指導」肯定的評価85%以上(H26年度87.2%)</p> | <p>①三丘セミナー8回、東大訪問1回、阪大訪問4回、市大訪問2回、リーダーズセミナー2回、特別講義9回など計26回実施。同窓生等のご協力を受けて生徒の夢を育む重要な取組で、満足度高い。(◎) ②SSH・SGHとも充実した内容を実施。SGHとしてBOPビジネスプランを考え、「高校生ビジネスプランプリ」にて全国10位内1班、20位内1班、100位以内3班など好成绩(◎) 2月「CSⅡ発表会」を実施。 ③「東京キャンパスツアー」実施(8月)卒業生の教授などの協力を得て質の高い内容実施。(満足度100%)(○) ④新しい取組みを実施し、充実した内容を作成中(○) ⑤1年生全員対象に、今年初めて「キャリアガイダンス」を実施。生徒の満足度が高かった。肯定的意見93% ・卒業生等による交流会(2年全員8月、3年全員4月・10月)、進路懇談会3回(希望者4月5月6月)、医学部進学希望生対象2回(4月10月)など8回実施。充実した内容で実施した。(◎) ⑥・東大、阪大薬学部連続講義、SSH研究室訪問など実施。1年全員京大見学会を実施し、生徒の満足度大変高かった。肯定的意見97%(◎) ・自己診断「適切な進路指導」肯定的評価86%(○) ⑦・地元総合病院での医療インターンシップ1回実施 参加生徒の満足度90%(○) ・68期生医療系進学希望 医・医14名 医・看16名、歯2名、薬20名 ⑧SGH2年目大変充実した内容で実施中。11月中旬発表、2月最終発表に向け課題研究中。メルルハースト大学の派遣授業も順調に実施。生徒の満足度100%(◎) ・海外大学進学希望 69期1名(○)</p> |
| | <p>(2) 英語によるコミュニケーション能力の育成を図る ア グローバルリーダーの育成 イ 国際感覚の育成を図る</p> | <p>⑦医師・看護師などの医療系職場体験を実施し、医療系進学者の増加を図る。 ⑧「メルルハースト大学」の派遣教員の授業を学ぶことにより、生徒の学習意識を高め、グローバルリーダーとしての素養とリーダーシップを学ぶ。 ⑨SETを活用した英語授業の構築と内容の充実を図る。 ⑩英語教育の充実を図るとともにTOEFL ITP、TOEFL juniorの受験者の増加をめざす。 ⑪オーストラリア・スタディーツアー、アメリカ・スタディーツアー、フィリピン・スタディーツアー、海外修学旅行、スポーツ海外交流を実施しグローバルリーダーとしての意識の向上を図る。 ⑫海外よりの交流生徒・短期留学生の受け入れを積極的に行う。</p> | <p>⑦参加生徒の満足度85%以上 ・医療系進学者の5%増加 ⑧生徒の授業満足度90%以上 ・海外進学1名以上をめざす。 ⑨生徒の授業満足度80%以上をめざす ⑩TOEFL ITP+TOEFL juniorの受験者数300名以上をめざす(H26 214名) ・学校教育自己診断「コミュニケーション英語を学ぶ機会」肯定的評価75%以上をめざす(H26年度 72.5%) ⑪スタディーツアー参加生徒の満足度90%を維持 ⑫海外からの受け入れ70名以上をめざす ・学校教育自己診断(生徒・保護者)「国際交流に関する取組みが充実している」の肯定的評価80%をめざす。(H26 生徒89.2% 保護者84.2%)</p> | <p>⑥1年生TOEFLクラス文理学科2クラス普通科2クラスにおいてTOEFL授業を実施。(○) ⑩・2年生希望者20名がTOEFL ITP level1を受験。1年生全員320名がTOEFL ITP level2を受験。1年生TOEFLクラス159名TOEFLiBTを1回受験。(◎) 学校教育自己診断「コミュニケーション英語を学ぶ機会」肯定的評価68.2%(○) ⑪・オーストラリア・スタディーツアー30名 フィリピン・スタディーツアー 19名 NASAツアー 20名 69期グアム修学旅行 357名 ウクド高校と交流などのツアーも参加生徒の満足度90%以上(◎) ⑫・海外よりの短期交流受け入れ 中国 高校生訪日団30名 来校(6月)生徒交流 韓国 慶山高校より33名 来校(10月)生徒交流 オーストラリア カンタベリー高校15名来校(9月)生徒交流 アメリカ在住生徒1名、台湾生徒1名受入れ交流など多岐にわたる内容を実施 計80名受入れ(◎)。 ・倫理の授業中にベトナム、インドネシア、マレーシアなど留学生による異文化交流を実施 ・3月アメリカポートランド23名、台湾野球スポーツ交流(嘉義高校)21名実施 ・学校教育自己診断(生徒・保護者)「国際交流に関する取組みが充実している」 肯定的評価 生徒83.6%、保護者85.8% (◎)</p> |

| | | | | |
|--|--|--|---|---|
| <p style="text-align: center;">2</p> <p style="text-align: center;">確かな学力の向上と進路希望の実現</p> | <p>(3) 質の高い授業による確かな学力向上</p> <p>ア 質の高い授業の提供</p> <p>イ 学力向上の取り組み</p> <p>(4) 進路希望の実現</p> | <p>①SGH・GLHS・SET設置校として文理学科・普通科に適した教科・科目の教材開発、授業方法の研究を進める。</p> <p>②生徒の自学自習（家庭等での学習）時間を2時間以上確保させる。</p> <p>③授業アンケートや研究授業を活用して授業力向上を図る。</p> <p>④1年生及び2年生で勉強合宿を実施して、学力向上と学習意欲の向上を図る。</p> <p>⑤課題研究(CS 探究)をイノベーション人材育成の観点から一層充実させ、その成果を、英語を交えて発表する。</p> <p>⑥基礎的、基本的な学力を高めるために読書量、読書時間の確保を図る。</p> <p>⑦難関国立大学等（東大、京大、阪大、神大、市大、医学部医学科等）への合格者の増加を図る。</p> <p>⑧1、2年生の成績不振者には計画的な「成績不振者講習」を行い、学力の回復と意欲向上を図る一方、発展的専門的な学習「進学講習（三丘スタディーハード）」を行い、学力を養成する。</p> <p>⑨三丘エクセレンスなどを利用して卒業生チューターとの学習・進路相談を充実させ、生徒の進路意識の醸成を図る。</p> <p>⑩生徒自らが適切な進路選択できるとともに、難関大学への志望力を高めるために進路指導体制の強化し、3年間の進路育成プログラムを完成させる。</p> | <p>①SGH・GLHS・SET設置校として、教員対象授業公開年4回以上、保護者への授業公開3回以上を実施する。</p> <p>②1、2年生で1日2時間以上の自学自習する生徒の割合50%以上をめざす（H26年度40%）</p> <p>③生徒の授業満足度85%以上を維持（H26年度87%） 生徒の「三丘スタディーハード」の満足度70%以上をめざす。</p> <p>④参加生徒の満足度85%以上を維持（H26年度100%） 生徒の参加数100名以上めざす</p> <p>⑤参加生徒の満足度85%以上維持（H26年度100%）</p> <p>⑥「月下氷人」や「図書だより」を活用するなどして、読書指導を充実（1、2年次は、学期に5冊以上読書）</p> <p>⑦難関国立大学合格者数を毎年増加させる（H26年度147人）</p> <p>⑧国立大学現役合格者数を毎年増加させる（H26年度147人）</p> <p>⑨卒業生チューターとの懇談・相談会の年間5回以上の実施を維持（H26 10回）</p> <p>⑩本校の進学指導に対する生徒の満足度80%以上をめざす（H26年度87%）</p> | <p>①公開授業は、他校の教員対象4回、保護者対象3回実施。他校教員対象では、授業後に研究協議も実施し意見交換し授業改善に有意義な機会となった。 また校内授業見学週間を2学期に実施（10/26～11/20）のべ120回の授業見学を実施(◎)</p> <p>②土曜授業を計画的に実施。年間計17回実施。 家庭学習時間についてアンケート結果(第2回11月)は、昨年度第2回と比較して、2時間以上、1年は、35%⇒38%、2年は45%⇒48%（△）3年は95%</p> <p>③授業アンケートを2回実施。それに伴い教職員も改善シートによる振り返りを全員実施。授業満足度87% 「三丘スタディーハード」を年間220回実施。(◎) 生徒の満足度は90%</p> <p>④勉強合宿は1年7月(京都)・2年9月(大阪)で実施。 1年67名、2年48名 計115名参加。(◎) 生徒の満足度は100%</p> <p>⑤SSH研修(5月)では、3年生が阪大留学生に向け、英語で課題研究成果を発表。 ・SSH全国生徒発表会（8月南港）にて3年が発表 ・京都大阪数学コンテスト2年4名参加 ・京大数学道場5名、数学オリンピック9名参加 ・京大GSC(グローバルイノベーション)に2年1名1年2名計3名、阪大SEEDSプログラムに2年2名参加。 今後の課題研究において期待できる。 ・2年生文理学科において全員課題研究を実施。 2月「CSⅡ発表会」を実施(2月)(◎)</p> <p>⑥国語科が中心となり、特に1、2年生での「読書記録」を提出させて読書指導を行い、月3冊の読書を推進。 読書指導は継続して重要課題である。(○)</p> <p>⑦3年生の進路実現に向けて指導。(○)</p> <p>⑧「成績不振者講習」1年生には1・2学期29回、2年生には1・2学期57回。授業で躓いていた生徒の指導にもっと力を入れたい。 進学講習は三丘スタディーハードとして実施。220回実施。(◎)</p> <p>⑨・3年2回、1・2年各1回、医学部2回、SSH1回計7回実施し、生徒の進路意識の向上を図った。(○)</p> <p>・進路育成プログラムをバージョンアップをめざして改良中。 本校の進学指導に対する生徒の肯定的意見86%(◎)</p> |
| <p style="text-align: center;">3</p> <p style="text-align: center;">基本的な生活習慣の確立と 自主自立・人権尊重の精神の涵養</p> | <p>(5) 生活習慣の確立と三丘スピリット育成</p> <p>(6) 人権尊重の教育推進</p> | <p>①規範ある集団生活を確立し、遅刻指導の徹底と授業集中力を高める。</p> <p>②部活動や学校行事を通じて「三丘スピリット」を育み、「集中と切替え」ができる生活態度を育成する。</p> <p>③各種の行事や部活動を通じて豊かな人間性とリーダーに必要な資質を養う。</p> <p>④人間関係の構築などの今日的課題をふまえて、リーダーにふさわしい豊かな人間性や資質を涵養する。</p> <p>⑤人権教育推進委員会と学年や分掌が連携し、恒常的な情報交換を行う。</p> | <p>①1日1クラス当たりの遅刻人数0.5人未満（H26年度0.50人）</p> <p>②1、2年生の部活動加入率95%以上を維持（H26年度95%）</p> <p>③リーダー研修を年1回以上実施（H26年度2回実施）</p> <p>④各学年、年1回以上の講演会と人権HRの実施 ・学校教育自己診断（生徒）「人権・環境・福祉に関して学ぶ機会」に関する肯定的評価50%以上をめざす（H26年度40%）</p> | <p>①遅刻は2学期末まで1日1クラスあたり0.51と昨年同時期より微増。学年別では3年生は0.65⇒0.62に、1年生は0.35⇒0.13減少したが、2年生が0.45⇒0.66と増加。特定の生徒による遅刻が多いが、学習の基盤となる規範意識の向上に一層努めたい。(△)</p> <p>②部活動加入率95%を維持。陸上部が全国大会に、陸上部・水泳部・硬式テニス部、なぎなた部で近畿大会出場。文武両道の三丘スピリットの継承。(○)</p> <p>③リーダー研修を5月、12月の2回実施。今後も全教職員が様々な場面で力を合わせて取り組んでいきたい。(○)</p> <p>④3年、2年は「広い世界の中の日本」というテーマで、1年は「台湾から見た日本」をテーマに実施。 人権教員研修は、「在日外国人生徒の教育について」をテーマに8月に実施。 ・学校教育自己診断（生徒）「人権・環境・福祉に関して学ぶ機会」に関する肯定的評価52%(○)</p> |

| | | | | |
|--|---|---|--|---|
| <p style="text-align: center;">4</p> <p style="text-align: center;">機動的な学校運営体制の確立と教職員の資質向上</p> | <p>(7) 機動的な学校運営</p> <p>(8) 安全・安心で開かれた学校</p> <p>(9) 教職員の資質向上</p> | <p>①機動的な学校運営のため、学校経営計画の学校の目標や取り組みを共有し、実行し、常に教職員が課題や改善点を意識し、次年度につなげる。評価・育成システムとより一層関連を深める。</p> <p>②校内イントラを一層積極的に活用し、情報の共有を進める。全員がICTを使って業務の省力化を図る。</p> <p>③安全で安心できる学校をつくるため緊急事態発生時の対応や教職員の研修など危機管理体制を確立する。</p> <p>④生徒相談室の機能の充実を図るとともに、特に問題を抱えた生徒について、学年団での情報交換や連携指導を図る。</p> <p>⑤開かれた学校として、保護者や地域との連携を図るとともに、教育活動や学校運営についてWebページを通じて公表していく。</p> <p>⑥文化祭や登録文化財「三丘会館」、芸術祭、各種講演会などを広く府民に積極的に公開する。</p> <p>⑦学校・同窓会・PTAが一体なり、充実した内容で120周年記念事業を行う。</p> <p>⑧新着任教員が新しい職場に早期に適応できるように研修を実施し、教職員の資質向上を図る。</p> <p>⑨学力向上のため授業力向上をめざし、校内研究授業を開催するとともに教育産業等の授業研修受講を支援する。</p> | <p>①学校教育自己診断や提言シートなどを活用して、改善を図る</p> <p>②利用についての研修を1回以上実施</p> <p>③各学期1回以上の研修を実施</p> <p>④「こころのアンケート」の継続実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「支援カード」の円滑導入 ・随時、ケース会議を開催 ・随時、学年団での情報交換会を開催 <p>⑤各学年の保護者連絡会等を随時実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Webページは随時更新し、行事等は10日以内の情報提供を行う <p>⑥地域住民、府民など公開する行事を年間3日以上設定する。</p> <p>⑦120周年記念事業に対する肯定的意見70%以上をめざす</p> <p>⑧年間6回程度の研修を実施する</p> <p>⑨・校内研究授業 各学期1回実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育産業等の授業研修や他校の研修に年間50人以上を維持 (H26年度81名) | <p>①学校教育自己診断アンケート(教職員)も実施。アンケートや提言をふまえて、今後の学校経営に理解を得る努力をしていきたい。(○)</p> <p>②電子黒板などの効果的に授業で活用すべく、教員相互の授業見学を11月実施。情報処理室の機器に関する研修を2回実施。(○)</p> <p>③各クラブキャプテン対象に「救急救命研修」を実施。(7月)、また10月には昨年度に引き続き、防災宿泊訓練を本校生徒、地域の学童、教員等63名、PTA3名が参加実施。12月「教員救急救命研修」を実施 各学期1回ずつ実施 (◎)</p> <p>④</p> <ul style="list-style-type: none"> ・問題を抱えた生徒に対しての情報を共有し、統一した指導を行うためにケース会議を開催。4回(◎) ・各学期・各学年成績会議及び情報交換会を担任、学年団などのレベルで随時実施。引き続き組織的対応を維持・強化していきたい。(○) <p>⑤・1,2年は2回、3年は1回開催。視聴覚教室があふれるほどの参加があった。今後も保護者への情報提供の場として実施していきたい。(○)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校行事の情報提供が遅れる場合があった。(△) ・SGHの英語版のWebページも作成し更新している。(◎) <p>⑥・中学生・保護者対象の学校説明会を4回、塾対象説明会1回(7月)実施。いずれも昨年度以上の人数ご参加。(◎)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文化祭2日(3758人来場)、体育祭1日、芸術祭4日など7日実施。今後も機会をとらえて公開する。(◎) <p>⑦5月1日120周年記念講演会、10月23日120周年記念式典・祝賀会、記念誌作成、記念事業等、成功裏に実施できた。(◎)</p> <p>⑧若手教員の勉強会「三究会」において、校内勉強会や「三国丘教科スタンダードづくり」を実施。(○)</p> <p>⑨校内での相互の授業見学を推進すべく、授業見学期間を11月に設定し実施。各教員3回以上見学を実施(○)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育産業や他校等が実施する教科研修や入試問題研究研修等に30名が参加。 ・他府県の先進的取組校を訪問し、教科指導・進路指導を研修(横浜サイエンスフロンティア高校) |
|--|---|---|--|---|